

mizuki

みずき
第22号



大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター 医療連携室ニュース ● 2013年1月発行

CONTENTS

- 年頭のご挨拶…………… P.1
- 前立腺癌治療センターのご紹介…………… P.2
- 口腔インプラント外科センター設置のご案内…………… P.3
- 医療連携室から…………… P.4
- 診療科からのお知らせ…………… P.4
- 編集後記…………… P.4

謹賀新年 2013

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新しい年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

地域医療機関との連携の更なる強化を目指して立ち上げました広域医療連携センターは、昨年9月に順調に船出いたしました。その三本柱の一つであります医療連携室から、今年も「みずき」をお届けいたします。今年、当センターのより具体的な活動に期待していただきたいと思います。医療連携室の受付時間の延長や受診申し込みのスムーズな返信をはじめ、逆紹介の推進も進めてまいります。また、本学における電子カルテの稼働は2014年1月からですが、今春から地域連携システムを導入予定です。これにより、紹介状の管理を徹底して行い、返書漏れを防ぐようにいたします。その他、クリティカルパスの推進、セカンドオピニオンの円滑な運用などにも力を入れて参りますので、本年も宜しく願い申し上げます。



広域医療連携センター
センター長
黒岩 敏彦

前立腺癌治療センターのご紹介



前立腺がん治療センター
センター長

東 治人

(あずま はるひと)

基本理念

私たちは前立腺癌についての最新の知識と最良の技術を結集して、患者様に最適な治療を提供しています。

前立腺癌は、患者様が高齢であること、また、癌の進行がさほど早くないことなどから治療には極めて多くの選択肢があります。しかし、一人の患者様が受ける治療は一つであり、重要なことは個々の患者様に最適な治療法を選択することです。当センターでは、泌尿器科腫瘍専門医、放射線科医、そして、病理医といった、それぞれのエキスパートが緊密なネットワークを組んで、患者様の癌の状態、年齢、体力、あなたの希望を含めたすべての状況を判断し、極めて多くの選択肢の中から最適な治療を提供します。

フルラインアップを備えた

前立腺早期癌に対する低侵襲治療

早期癌に対する治療は、大きく放射線療法と手術療法に分けられます。手術療法では“お腹をきらない腹腔鏡下手術”と腹腔鏡補助下に“極めて小さい手術創で手術を行うミニ創手術”における両方の施設認定を取得しており、開腹手術も含めて毎年約100例の患者様に対して手術を行っています。尿失禁や勃起不全は術後に最も懸念される合併症ですが、本学では術中リアルタイム超音波ガイドを用いた“大阪医大式尿失禁・勃起不全予防7項目”を施行することによってこれらの合併症の発症率は有意に減少しています。

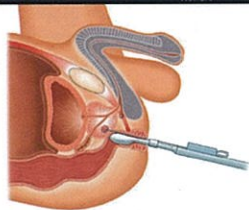


前立腺全摘除術

腹腔鏡手術



非常に近くで、しかも、顕微鏡までよく見える！



また、放射線治療においても、前立腺内部に照射する組織内照射法とコンピューター制御で前立腺に限局して体外から照射するIMRTなど、すべてのオプションを備え、これらに関する豊富な経験と知識を持った放射線科専門医の先生方と協力して患者様の病態や病状に合わせて最適な治療を選択しています。組織内照射法では早期癌の患者様に対して施行する密封小線源治療と、やや進行癌でありながら何らかの理由で手術ができない方に行う高線量組織内照射法があり、毎年40例以上の患者様に施行されそれぞれ有効な治療効果を上げています。IMRTに関しては高齢者で組織内照射に適さない方が適応となりますが、これも治療効果が高く30-40例の患者様に施行しています。これらに加えて4門照射といわれる通常の放射線照射法を合わせると手術を含め、全体で約200名以上の患者様を治療しています。

ロボット手術の開始

我々のスタッフが関連施設である徳洲会病院に出張し、ダヴィンチを用いたロボット支援手術を行っています。ロボット支援手術とは、人間の手と同じ動きをする機械アームを、お腹に開けた小さい穴を通して挿入し、操作パネルを通してアームを動かす遠隔操作システムです。ロボットの操作アームは人間の手の動きを忠実に遂行できるため、より確実な手術操作が可能であり、また、目となるカメラには術者が自由に操作できる3次元カメラが搭載されており、実物の10倍の拡大視野で手術を行うことができるため、出血量の減少、そして、勃起機能を温存する神経温存術に極めて効果的です。ロボット手術は、術後の痛みが軽く、全身状態の回復が早いと、高齢者でも安心して受けられる手術です。



進行性前立腺癌に対する体に優しい治療法

転移があるような進行癌では、ホルモン療法というお薬による治療が中心となります。近年注射薬と抗男性ホルモン剤という内服薬を併用するCAB療法という方法が登場し奏効率は飛躍的に向上しました。しかしながら、組織型の悪いタイプの進行性前立腺癌では、治療導入時には一時的に軽快しても数年以内に治療に反応しなくなり、重篤な状況になることが少なくありません。本院ではこのような患者様に対して、約10年前から女性ホルモン剤と抗癌剤を併用した内分泌化学療法を行っています。内分泌療法をはじめ、他の方法では全く効果がなく病気が進行していた、或いは初診時にすでに骨に無数の転移を認めていた場合においても、本療法導入後、血液検査や画像診断で癌が全くわからなくなるまでに効果を認めた患者様が少なからず見られています。

前立腺癌という診断を受けて戸惑っているあなたへ「私たちが、あなたに最適な治療を提供します」。一度ご相談下さい。

口腔インプラント外科センター設置のご案内



歯科口腔外科
科長

植野 高章

(うえの たかあき)

— 医科歯科連携による口腔機能再建を目指して —

美味しい食事は、人生の大きな楽しみの一つです。その楽しみのためには、丈夫な顎の骨と歯が必要です。われわれは、不幸にして歯や顎の骨を喪失し、口腔機能を失った患者さんに高度な歯科インプラント治療を受けていただくために口腔インプラント外科センターを設置いたしました。

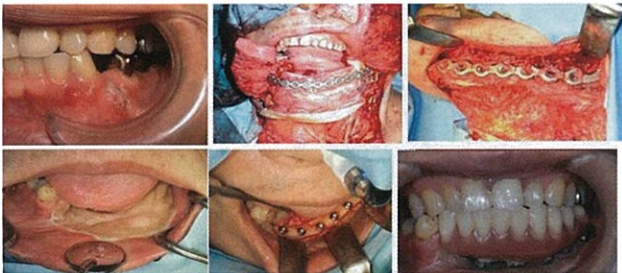
大阪医科大学附属病院歯科口腔外科では、平成24年2月に厚生労働省より「顎顔面骨欠損症例への歯科インプラント義歯治療による咬合機能再建」について先進医療の認定を受けました。そして平成24年4月より①鼻腔底におよぶ骨欠損、②顎骨腫瘍切除後の再建顎骨、③外傷による広範囲歯槽骨欠損、④外胚葉異形成症無歯顎などの難易度の高い咀嚼機能回復症例への歯科インプラント治療が保険導入されました。口腔がん手術や外傷などで広範囲に顎骨を喪失した場合は、義歯を作成しても口腔内では義歯の使用が困難です。口の重要な機能である摂食・発音機能が低下し、退院後のQOLも低下します。広く世界中で使用されている骨結合型歯科インプラントは、こうした顎骨欠損症例への口腔機能回復に極めて効果的であることが証明されています。われわれ口腔インプラント外科センターは医科・歯科連携による高度な口腔機能回復を目指します。

また重度の歯周病やう蝕などで、不幸にして歯を喪失した患者様への歯科インプラント治療も行っています。顎骨が不足している難症例には腸骨や下顎の骨を利用して自家骨移植などを行った後にインプラント治療を行います。口腔インプラント外科センターは、患者様が安全に安心して歯科インプラント治療を受けられるように歯科医師会の先生方とも連携して治療に取り組んでいます。

歯や顎骨の喪失による口腔機能障害でお悩みの患者様がおられましたら、当院の口腔インプラント外科センターへのご紹介をいただけましたら多幸に存じます。

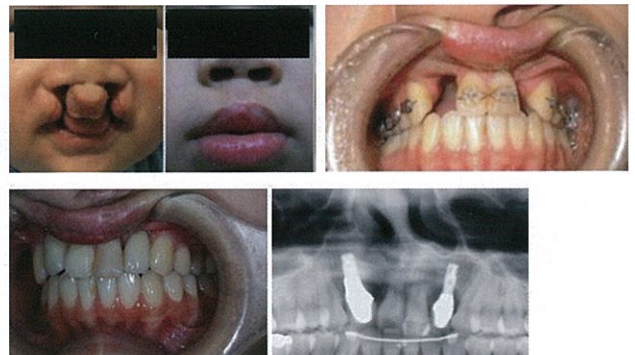
耳鼻科・形成外科・口腔外科のチーム治療

- 顎骨腫瘍切除後の遊離血管柄付き腓骨皮弁再建後から歯科インプラント義歯



形成外科・口腔外科のチーム治療

- 口唇口蓋裂治療後のインプラント治療



医療連携室から

●平成24年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会の開催報告

昨年11月22日、平成24年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会をホテルグランヴィア大阪にて開催いたしました。100名近い皆様のご参加をいただき、まずは本院病院長から本院の現況報告、新任の整形外科科長 根尾昌志の紹介、その後、株式会社健康保険医療情報総合研究所の瀬野隆則氏による「今後の医療政策の方向性と医療機関の経営対策」と題した、病院経営に関する講演が行われました。

総会終了後には短い時間でしたが、和やかな交流の時間を過ごしていただきました。
お忙しい中ご出席くださいました皆様に、心からお礼申し上げます。



診療科からのお知らせ

歯科口腔外科

埋伏歯抜歯などの手術については、初診当日には行っておりません。
後日予約となりますので、ご了承ください。

編集後記

最寄りの駅までバスで15分。少し不便だけど静かで緑がある。それが好きでこの町に新しく移り住んでいよいよ7年になる。
朝の通勤通学のバス停には、名前さえ知らないが、いつもの顔ぶれが並ぶ。私の乗るバス停でバスはほぼ満員。身動きがとれないくらいギュウギュウ詰めになる。

ところがその次のバス停で、障がいをもった女性がときどき乗ってくる。杖をついてバランスがとても不安定。何もこんな一番混むピーク時に乗らなくても・・・、しかしこの方、満員のバスにもかかわらず、ほぼ座ることができている。必ず誰かが声をかけ、席を譲られている。女性も丁寧に御礼の挨拶を欠かさない。朝の無機質な車内がグッと温くなる。

今日もいつもの「ありがとう」の女性の声。だけど、あの女性の声ではない。目を配ると、幼児を抱いた若い女性が今日は席を譲られて座っている。寒さで凍てつく車内が何かまた温かさで包まれている。

奪い合いじゃない。何気ないわずかな心づかいが、いつしか日常になっている。この町に来て良かった。
社会は確実に豊かになっている。そう信じたい。

(M. M)

医療連携室ご利用の案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

- 平日／8:30～16:00
- 土曜日／8:30～12:00

※第2-4土曜日は休診です。

FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

送信先

FAX. 072-684-6339

大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL.072-683-1221(大代表) 内線2308

TEL.072-684-6338(医療連携室直通)

当院専用のFAX紹介申込書、診療情報提供書(紹介状)及び封筒をご用意しております。

お手数ですがご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください。